川崎 陽祐、太田 有希乃、鈴木 悠真、木村 冠斗

介護現場の自立支援のための体幹操作ハンズフリー車いすの開発

― 乗る楽しさを、機能改善へ。余暇時間から「できる」を増やす。 ―

背景、目的

人手不足が進む介護施設では、専門職による個別リハビリテーションの時間が限られるため、余暇時間に利用者が自ら身体を動かす機会を創出する必要がある。そこで、車いすを楽しく操作しながら体幹運動を促し、**余暇時間を生活リハビリテーションへ転換する**ことを目指す。

実現した製品の特長

「Feeling」は、**身体を傾けた方向に移動する車いす**である。利用者は、身体動作と車いすの動きの関係を理解しながら、**体幹・骨盤の使い方を学ぶことができる。**また、安全アシスト機能と利用者の能力に応じた段階的なレクリエーションにより、**楽しみながら継続的に利用できる。**

波及効果

利用者： 体幹機能やバランス能力の向上、達成感や活動意欲、他者交流の促進
職員： 個別リハビリテーションを補完する手段と、アセスメント情報の提供
施設： 職員の負担を大きく増やさない、自立支援機会の充実